「安全な行動を脅かす5つの落とし穴」

1 認識不足

トーストを焼いていて、皿を取るために熱いトースターの上に手を伸ばして、やけどする。

どんな危険：
同じ作業を繰り返していると、認識不足が原因で事故が起こる可能性があります。

なぜ：
なじみのある状況や環境では、安全だと錯覚してしまいます。

止めるには：
周囲の状況に対して極めて敏感になりましょう。どうすれば良いか：
- 他の人の判断に頼らずに自分自身の目を信じましょう
- すべての可能性を確実に考慮したかどうかをよく考えましょう
- 疑問はすべて質問しましょう
- 焦ってはいけません

2 意図しない圧力

上司が「あとどれぐらいの時間でできるか？」と今日は3回も聞いてくる。結局それは、納期に間に合わないので顧客に最新状況を報告するためだったことがわかる。

どんな危険：
意図しない圧力は、プロジェクトを急がせるようにチームに圧力をかけることになる場合があります。

なぜ：
自らの行動がチームの行動に与える影響を認識していません。

止めるには：
他の人が話しかけやすい状態を維持し、その情報が必要な理由をはっきりと説明しましょう。

3 他人の目を気にする

この装置は持ち運ぶには重すぎるので、手伝ってもらわなければならない。でも、力がないと思われたくないし、仕事を遅らせたくない。

どんな危険：
恐れがあると、してはならないとわかっていることをしてしまいます。

なぜ：
私たちは他の人にどう見られているか心配で、だれも失望させたくありません。

止めるには：
恐れを直視し、問題があることを受け入れ、恐れについて隠さずに話しましょう。

4 集中力の欠如

入院している叔父のことが頭から離れない。叔父の症状は安定しており、家族も付き添っているけれど、そうだ、私はブレーキを修理しなければならなかった。どこまでやったかな？

どんな危険：
集中していないと、いつ注意がそれてもおかしくありません。

なぜ：
慣れた作業だと、考え事に気を取られやすくなります。

止めるには：
気を散らさないように訓練しましょう。考え事を始めたらすぐに、「今は忙しいからダメ」と自分に言い聞かせましょう。

5 リスクの軽視

電球を交換する必要があるけれども、梯子は重いし、裏庭の物置にある。その上、外は雨。代わりに椅子を使おう。

どんな危険：
自分に言い訳をして、危険を軽視しています。

なぜ：
その結果、より簡単で時間も節約できると自分が考えるやり方でやりたいのです。

止めるには：
以下の言葉が聞こえたら警戒しましょう。
- 起こる可能性は極めて低い
- 特に慎重にやるから
- 私には絶対に起こらない
- ほんの数分しかかからない
- 私は…するだけだから
- ほんの…だけだから

情報提供：セーフティインプルーバーズ（Safety Improvers）。詳細な情報は担当の安全管理者にお問い合わせください。